

## 令和2年度 大野南地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和2年11月13日(金)午後7時から午後8時37分まで
- 2 場 所 南区合同庁舎 講堂
- 3 市側出席者 本村市長、森副市長、菅谷南区長、石井市長公室理事、前田まちづくり事業部長、阿部南区副区長、渡邊市民局長
- 4 出席委員等 21人
- 5 傍聴者 5人
- 6 懇談会の要旨

テ - マ	相模大野駅周辺の今後の魅力あるまちづくりについて
概要	<p>大野南地区では、平成30年9月末に伊勢丹相模原店の閉店が発表されて以降、地域課題として相模大野駅周辺の今後のまちづくりについて協議している。</p> <p>相模原市(以下、「市」という。)からは今後の具体的なまちづくりのコンセプトが示されない中、昨年度からは、まちづくり事業部や経済部、南区役所のほか、当該物件の取得先である野村不動産株式会社(以下、「野村不動産」という。)の担当者も交えて協議し、伊勢丹相模原店跡地(以下、「跡地」という。)に関する短期的な課題、相模大野全体の面としての相模大野駅周辺のまちづくりに関する中・長期的課題及び伊勢丹相模原店の建物解体工事中の迂回路に関する課題を現時点で大野南まちづくり会議の中で可能な限り議論した上で整理した。</p> <p>大野南地区のまちづくりの根本は、人々が暮らしやすく、一度訪れた人がまた来たい!と思えるまちをつくることだと考える。</p> <p>伊勢丹相模原店が閉店して1年以上が経過したが、これまで具体的な説明がなかった跡地における後継施設の概要や、相模大野駅から相模大野中央公園(以下、「中央公園」という。)等への動線の確保といった、市の課題への取組状況及び跡地の施設完成までの今後のスケジュールについて、可能な限りご報告いただきたい。また、新型コロナウイルス感染症拡大が続く状況を踏まえた上で、市として相模大野を今後どのようなまちにしていくのか、具体的なコンセプトやテーマはあるのか、ないのであれば、既存のまちづくりに関する計画をどのように見直し対応するのか、市長自らの考えをお伺いしたうえで、市の南の玄関口として相模大野のまちをどのように維持・発展させていくべきかについて懇談したい。</p>
地区の取組状況等	<p>まちづくり会議における令和元年度の会議結果について、令和元年12月27日に中間報告、令和2年5月25日に最終報告を市に提出している。</p>
市の取組状況等	<p>昨年のまちづくり懇談会も相模大野駅周辺のまちづくりに関する議題だったと思うが、市長に就任して以降、この取組に関して地域の皆様との対話が非常に少なかった点はお詫びをしなければならない。しかしその一方で、神奈川県警察(以下、「県警」という。)に対して季節の橋の下への横断歩道及び信号機の設置を要望し、株式会社三越伊勢丹ホールディングス(以下、「三越伊勢丹」という。)及び野村不動産の社長と面会した際は跡地の後継施設について市の要望を直接伝えている。また、小田急ホテルセンチュリー相模大野の業態変更に関して</p>

は、商店街や商工会議など複数の団体からの要望を受け、宴会場の存続について小田急電鉄株式会社（以下、「小田急電鉄」という）の社長に直接要望した。このように、市としても取組を進めていることはご理解いただきたい。

相模大野は市の南の玄関口である一方、近隣には町田駅の商業施設や南町田駅のグランベリーパークがあり、海老名駅周辺でも大規模なまちづくりが進められているなど周辺環境がかなり変化しているため、他市や他地区にはないまちづくりをしていかなければならないと考えている。地域からは相模大野らしい教育、文化の薫りが漂うまちが望まれていると思っており、三核構造を都市の骨格として、賑わいのあるまちづくり、そして風格がある良好な中心市街地の形成を進めていくというコンセプトについては、基本的に当初から変わらないと考えている。相模大野には市営駐車場や中央公園、相模大野図書館（以下、「図書館」という。）といった市の誇る施設もあるが、伊勢丹相模原店という三核構造の一つがなくなったこと、またコロナ禍の影響で、相模大野に人を呼び込みたくても呼び込めないという非常に厳しい状況が続いている。そのような状況下でも、将来にわたり持続可能なまちづくりを進めていくのが市の責務であり、そのためには地域の皆様と一緒に次の世代へ確かなたすきを繋いでいく責任があると思っている。新たなまちの賑わいの創出、コロナ禍に負けないまちづくりにおいて、これまで以上にまちづくり会議や商店街等のさまざまな団体と、行政が連携しながら人を呼び込み、ポストコロナを見据えたまちづくりを進めていかなければならない。

市長就任前から、副市長が中心となり三越伊勢丹の執行役員と何度も話し合いを重ねており、令和元年9月23日に同社社長と面会した際は、当時の地域からの要望を受け、伊勢丹のブランドを残してほしいということをお伝えした。

また、令和2年2月3日に野村不動産に伊勢丹相模原店の土地・建物が売却されたが、その翌日の2月4日に同社社長と面会し、「公共歩廊の機能維持」、三核構造における「商業・文化の核の維持」、まちづくり会議をはじめとした「地域の皆様との意見交換」をしっかりとすること、建物解体工事の「騒音、振動の防止など周辺環境に十分配慮すること」、の4点をお願いしており、一定の理解はいただいていると思われる。今後も議論が続くと思うが、その中で、公共歩廊や公共空間の確保について交渉していきたい。地域の皆様との対話という点についても、同社の担当者がまちづくり会議に何度か来ているかと思うが、今後、よりまちづくりに参加してもらいたいと思っている。小田急電鉄でも、ソフト面からまちづくり携わることにも注力していて、相模大野のまちづくりへも参加を呼びかけたところ、前向きな意向を示していただいた。

また、現在、季節の橋を利用した通行ができなくなり、地域の皆様には大変ご不便をかけている。本市選出の8名の神奈川県議会議員（以下、「県議会議員」という。）にもご協力いただき、県警に対して季節の橋の下に横断歩道及び信号機の設置を要望していたが、設置のための条件が揃わなかった。9月からは解体工事に伴って跡地に全面的に入れなくなってしまい、迂回路もなく地域の皆様にご迷惑をおかけしていることをお詫び申し上げます。現在、ロビーシティ前交差点は歩車分離になっていると思うが、相模大野交差点についても歩車分離等の対策が可能か県議会議員の協力を得ながら県警と話を進めている。具体的には、今

後、市議会に予算を提出するが、歩行者動線の分散化を図るため、令和4年度に季節の橋の市営駐車場側に階段を整備する予定である。相模女子大学グリーンホール（以下、「グリーンホール」という。）も1000人規模のイベントが年間100日以上あるため、滞留を防ぐため相模大野交差点と季節の橋で分散化を図るなど、引き続き安全で安心な歩行者動線の確保に努めていきたい。今後、歩行者動線に変更がある場合は、案内図の設置など、混乱が生じないように対応していきたい。

跡地では解体工事が始まっている一方、まちづくりに対する地域の皆様の気持ちは理解している。今後野村不動産から跡地のまちづくりについて具体的に示されるはずなので、市もしっかりと議論していきたい。その際には、地域の皆様とともに公共歩廊の機能維持や三核構造の位置付けなど、野村不動産に対して具体的に話をしていきたい。コロナ禍ではあるが、ポストコロナを見据え、ハード面・ソフト面の両面を活かした新たな賑わいの創出についてもよく検討していきたい。（市長）

市長から話があったとおり、相模大野のまちづくりに関しては、三核構造を都市の骨格とするという基本的な考え方は変わらないと考えているが、伊勢丹相模原店の閉店や小田急ホテルセンチュリー相模大野の業態変更等の近年の市場環境の変化や、生活様式の多様化が、地域の皆様が求めるまちの在り方に大きく影響をもたらしていると認識している。このような状況だからこそ、地域の皆様がどのようなまちを求めている、今後のまちづくりに必要な施策についてどういうものが有効であるか、皆様とよく議論を重ね、まちづくりを進めていくべきであると考えている。

市の取組状況について具体的に説明すると、昨年度から庁内で「相模大野駅周辺まちづくり推進会議」を設置し、「世代を超えて住む・来る人に愛される持続可能なまちづくり」を目指して、庁内横断的な情報共有や課題共有を図りながら検討を進めている。国においても、今後のまちづくりの方向性として「居心地が良く歩きたくなるまちなか」というキャッチコピーで、文字通り歩行者が居心地よく街中を歩ける空間づくりについて示しており、市においても地域の皆様と一緒に今あるまちの資源を有効活用しながら「歩行者中心の空間の形成」による魅力あるまちづくりについて検討を進めていきたい。

跡地については、野村不動産に売却されて以降、大野南地区まちづくり会議を中心に地域の意見を聴いてきたが、市と野村不動産では、市長からも説明があったとおり、「公共歩廊の機能維持」、「商業・文化の核の維持・確保」、「周辺施設との連携」を軸に協議を重ねていて、市が要望している地域貢献やまちづくりへの寄与について、十分理解を得ていると考える。具体的には、コリドー街からグリーンホール、中央公園を結ぶ公共歩廊や、商業施設と一体となった人が留まれるような交流スペース、憩いの空間としての公開空地など、相模大野の新しいまちづくりを進めるために必要な機能や施設の設置について、協力する意向が示されている。これからも協議を重ね、さらなる充実を図りたい。また、同社は他市において、「エリアマネジメント」という民間が主体となってまちづくりや地域経営を行っている実績もあるので、相模大野においても建築物を建てて終わりではなく、継続的にまちづくりに関わり、地域に有益な活動をしてもらうよう

	<p>要望している。</p> <p>工事期間中の歩行者動線の確保については、県警へ要望していた信号機と横断歩道の設置については、なかなか困難な状況であるため、歩行者の安全と、円滑な道路交通の両立を図る別の方策として、相模大野交差点の「歩車分離方式」について、県警と具体的な調整を進めている。また、季節の橋に階段を設置し、回遊性を高めていくよう取り組んでまいりたい。今後の相模大野のまちづくりについては、地域の皆様からさまざまな意見・要望をいただいているが、まずは跡地の土地利用という短期的な課題に取り組み、今後、より一層まちに賑わいを創出できるよう、中央公園やコリドー街のリニューアルなど、中長期的な課題についても地域の皆様とともにまちづくりの検討を進めていきたいので、引き続きご理解、ご協力をお願いします。（都市建設局）</p>
--	---

懇談内容	
地区の発言	<p>既に跡地の解体工事が始まっているが、5年後に建物が完成するだけでは将来に希望が見えないと常日頃思っている。先ほどの市の話では取組を進めている様子もあるが、市としてまちづくりへの着手の時期をもう少し具体的に教えていただきたい。</p>
市の発言	<p>今後のまちづくりについては、跡地の開発を待つのではなく、建設前の移行期間を新しいまちづくりの準備期間と捉えて取組を進めていく必要があると考えている。市としてもSDGsやシビックプライドを推進しているが、SDGsの「誰一人として取り残さない」という視点で、相模大野で生活し暮らす全ての方がこのまちに関わる中で元気に健やかに暮らせるようなまちづくりをしていく必要があると考える。また、シビックプライドの観点で相模大野は商業施設、公園、文化施設が駅前のコンパクトなエリアに揃っていて、このような条件の場所はなかなか他にはないと考えている。この相模大野駅周辺の強みを生かしてまちづくりを進めていくことで、シビックプライドにつながるということも意識しながら取り組んでいきたい。（都市建設局）</p> <p>市の取組が見えづらいという点は申し訳なく思っているが、既に跡地は野村不動産の財産になっているので、行政の立場からは、今後地域の皆様と一緒にどのようなまちづくりをしたいか考えながら、同社と対話をしていかなければいけない。民間事業者の野村不動産が跡地の土地、建物全ての所有者であり、市に所有権がない中で、市も譲歩しなければいけないところと強く要請しなければならないところがあるという点をご理解いただきたい。今後、同社がどのような形でまちづくりを考えているのか明らかになった際には、そこから丁寧に根気強く交渉を進めていかなければならないと思っている。野村不動産には市民の皆様の意向を伝えていきたいので、皆様のまちづくりへのイメージや要望について、膝を突き合わせて対話を進めていきたい。そして将来的には、SDGsにあるような「誰一人取り残さないまちづくり」をしていきたいと思っている。（市長）</p>
地区の発言	<p>相模大野二丁目在住のため、土地柄よく人の流れを目にするが、現状として伊勢丹相模原店の自由通路が閉鎖となり、相模大野交差点の歩道は通行量にそぐわない道幅で、自転車もよく通行するので地域住民は危険を感じている。令和4年度に季節の橋に階段を設置して歩行者の分散化を図るということだが、それまで</p>

	<p>の間、日々危険にさらされている状況について、小さなところからでも改善策を実施していただきたい。</p> <p>また、三核構造の話だが、伊勢丹相模原店という核がなくなってしまったことにより、相模大野のまち自体が分断され、回遊性の確保が難しくなってしまった。日々の買い物は近所のスーパー、大きな買い物は他市の商業施設へ出かけてしまうという状況で、商店街も苦勞しているいろいろと取り組んでいるが良い方向に向かわず、コロナ禍もあって苦境に立たされている。市も野村不動産に日々交渉しているというのは耳にするが、逆に、私有地を通らなければ公共施設に行けないこと自体に問題があると思う。市長の話にもあった安心して歩けるまちづくりを目指すにあたって、私有地を通行しなくても改善できる方法を見出していきたい。それが将来にわたって安心して使用できることにつながると思う。野村不動産の新しい施設も、計画通り進めても5年ほどかかると聞いているので、今現在、歩道が危険な状態であること、商店街が危機に瀕していることを考えると、計画や交渉ではなく一歩でも現実的に進めているという話を持ってきていただきたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>相模大野交差点は、歩行者が集中し危険な状況であることは重々承知している。季節の橋への階段の設置をこれから進めるが、なるべく早く階段が供用開始されるようスピード感を持って取り組んでいきたい。しかし、ある程度の時間はかかってしまうので、その間に何かできないか、他の方策を含めて知恵を出しながら検討を進めていきたい。ご意見にあったように、たしかに公共施設への経路が民間の空間に影響を受けてしまうような構造がどうなのかという話はあるが、例えば、ポーノの自由通路のように市が部分的に地上権を設定するなど、市が権限を設定している場所もある。それと同様の手法が可能かは分からないが、なるべく民間の影響を受けないような通行ができる空間を確保する方法を考えていきたいと思っている。（都市建設局）</p> <p>先ほどの話から、この地域で毎日過ごしている皆様の日々の生活における不安や困りごとがにじみ出ていて、改めて襟を正す思いである。今のまちづくり事業部長の話に3点ほど説明を加えたい。まず、季節の橋を下りる階段の話だが、市長からも説明があったとおり、当初は季節の橋の下に横断歩道及び信号機を設置できないか、県議会議員の力も借りながら随分と粘ってきた。その狙いとしては、歩行者の安全確保はもちろんのこと、コリドー街へ人の流れをつくることにこだわっていた。しかし、近接する信号機との間隔が短いため新たな横断歩道及び信号機を設けることはできないという話であったので、代わりに相模大野交差点の歩車分離をお願いしたいということを県警との協議で進めている。コリドー街への人の流れに関しては、季節の橋を渡って階段を下りるような形をとれば、少しでも人の流れが確保できるだろうと考えているので、少し時間を頂くことになるが、ご理解いただきたい。</p> <p>次に、公共歩廊の話では、今までは伊勢丹相模原店の中を通過していた関係で、時間帯の制約や、今にして思えば密な印象があった。当時は、むしろ密な方が賑わっていて良いと感じたかもしれないが、コロナ禍を経験した私たちはソーシャルディスタンスなど人との距離感を大変気にするようになった。そういう点ではポストコロナを見据える中で、公共歩廊の幅員をできるだけとれるよう、野村不</p>

	<p>動産とは引き続き交渉していきたい。</p> <p>最後にまちづくりについて、野村不動産の執行役員には、行政だけではまちづくりはできないので、他市でもエリアマネジメントを手掛けているのであれば、相模大野でもしっかりとまちづくりに関与して欲しいと、市長とともに繰り返し話してきた。同社はエリアマネジメントの意識を持って相模大野のまちと関わっていく意向を示しているので、その点は安心していただきたいが、市と会社だけではまちづくりはできず、地域とともにまちづくりを進めていくことが、今の時代では求められていると考えている。相模大野には多くの地域資源があり、これまでは、コリドー街から伊勢丹相模原店を抜けて、中央公園や図書館、グリーンホールに行くことができ、まさに文化と安らぎを与えてくれる資源の宝庫であった。そうしたまちの再建に向けて、野村不動産と協議を進めていきたい。（副市長）</p>
<p>地区の発言</p>	<p>以前、他市で働いていた時にその市役所とも関わりがあったが、当時感じていたのは、地域の観光やイベント等を盛り上げるために市民や特定の団体だけで頑張るのではなく、市役所も協力して一緒に取り組んでほしいということだった。</p> <p>現在、市の方では野村不動産や小田急電鉄といろいろな話をしていると思うが、自分たちもできることは協力したいので、まちづくり会議の委員も含めて、地域のさまざまな意見を吸い上げる場をつくっていただきたい。市単独で動くのではなく、市と地域で同じ考えを持ち、一緒になって取り組みたい。</p>
<p>市の発言</p>	<p>相模大野駅は1日の乗降客数が12万人を超えるが、その多くの人々をいかに駅周辺に回遊させることができるかがまちづくりにおいて重要であると思うので、今後も、野村不動産、小田急電鉄ともアイデアを出し合いながら、ソフト面からのまちづくりについても、検討を進めていきたい。（都市建設局）</p> <p>まちづくりにおいては、ハード面とソフト面の両面がうまくかみ合ってこそ、まちが成長していくと思う。先ほど野村不動産のエリアマネジメントについて話したが、これはまさにソフト面でも同社が関わるというもので、どういう形で約束できるかは分からないが粘り強く要求していきたい。小田急電鉄についても、同社のまちづくり推進部が駅周辺に限らずもっと広いエリアでまちづくりに関わってほしいという意思表示を市長が獲得したので、市としては小田急電鉄、野村不動産、そして地域の皆さまとともにまちづくりを進めていきたい。まちづくりは、建造物などが完成することではなく、そこからさらに進化していくことであると思っているので、行政としてもあらゆる分野で連携し、地域の皆様の声を受け止めながら、一緒に相模大野をより良いまちにしていきたい。（副市長）</p> <p>相模大野交差点について、今後県警とは歩車分離の方向で話が進んでいくが、既に人があふれているという話を聞いて危険だと思ったので、しっかりと対応していきたい。なお、私有地を通らない公共施設への接続については、現時点では費用面などさまざまな課題があるため、引き続き検討させてほしい。</p> <p>また、日頃からまちづくりや自助・共助・公助などで地域の皆様の力を借りているように、行政ではできないことが多くある。次の世代へ確かなたすきを繋いでいくためにも、行政として近隣都市との広域連携にも力を入れながら、地域の皆様と一緒にまちづくりをしていきたい。子育て世代からは、相模大野に</p>

	<p>雨の日に子どもが遊べるような全天候型の施設の設置を望む声もあり、野村不動産や小田急電鉄にも提案している。民間、行政、そして市民の皆様で一体となって、これからのまちづくりを進めていきたい。（市長）</p>
地区の発言	<p>商店街では、伊勢丹相模原店の撤退後、これから約5年間この状態が続いていくのかと心配している。現状、コリドー街は見て分かれるとおり本当に人通りが少なく、居酒屋などの店舗の撤退も続いている。伊勢丹相模原店の撤退だけでなくコロナ禍とのダブルパンチで、どこもギリギリの状態で頑張っている。商店街から、コリドー通りの屋根の設置を何度か要望しており、イベントも実施しやすくなるので、5年後に向けて真剣に検討してもらいたい。先ほど市長から全天候型の施設について発言があったが、市営駐車場は使われていない部分が多く、屋上や地下、4階、5階部分などをうまく利用し、人が集まれるようにすることも考えられないか。いつも検討で終わって結果が出ないなど、何のために話をしているのかと感ずることもあるので、このような機会を活かして、検討ではなく前向きに取り組んでいただきたい。</p>
市の発言	<p>まずコリドー通りについては、空間を有効活用していくことが一つの起爆剤となると考えている。現在は夜10時から翌日の午前10時まで車両が通行できるが、例えば歩行者天国のようにできないかなどのアイデアを出しながら、今後いかに公共的な空間を有効活用していくのか、早急にさまざまな方策を検討していきたい。また、市営駐車場については、現在利用率が非常に低下しており、地下と5階、屋上部分は閉鎖している。地域の皆様からは、閉鎖している場所を地域活動の場や物品の保管場所などに有効活用できないかというご意見も頂いているが、駐車場として都市計画決定をしている施設なので、用途を変更するにはさまざまな手続きが必要だが、制度上用途の変更が可能かどうかも含めて有効活用について考えていきたい。（都市建設局）</p>
地区の発言	<p>コロナ禍もあるので仕方がないが、まちづくり会議からは市の動きがよく分からず、数か月前には判明していたのに本日初めて聞くような話もあったので、市とまちづくり会議で呼吸を合わせていくために、市の方で相模大野のまちづくりに関する庁内横断的な統括責任者を置いて、必ず毎回まちづくり会議に来ていただきたい。</p> <p>また、市長からSDGsやシビックプライドについて話があったが、一般的な話ではなく、相模大野に住む「大野人」として「大野プライド」を持つことが重要であると考えている。特に最近はコロナ禍の影響もあり、駅前に商業施設とともに密を避けられる広い公園があるグランベリーパークには注目するべきだと思えるが、相模大野の個性がなければ、これから近隣都市のまちづくりに勝てないと思うので、相模大野らしいコリドー街、グリーンホール、中央公園、市営駐車場を賑わいの創出のため有効活用してもらいたい。</p>
市の発言	<p>大野南地区まちづくり会議においては、都市整備課が相模大野駅周辺のまちづくりを担当する部署として今後も引き続き出席し、責任を持って対応させていただく。コリドー街の賑わいづくりに関しては、先ほどお話ししたとおり車道や歩道を有効活用しながら、テラス営業など、人が留まれる空間を創出していく取組を考えていきたい。先ほどグランベリーパークの話があったが、相模大野駅周辺についても、中央公園をリニューアルも含めて有効活用していくことが重要であ</p>

	<p>ると考える。コリドー街、グリーンホールから、一番奥に位置する中央公園にいかにか人を引き込めるかという意味でも公園のリニューアルは非常に大きな意味があり、その同線上にあるコリドー街に向かう人の流れも期待できる。そこにテラスやオープンカフェのような人が留まれる空間づくりを合わせて考えていきたい。(都市建設局)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>相模大野駅周辺のまちづくりのコンセプトを聞いたかったので本日の懇談会のテーマにしたが、伊勢丹相模原店の閉店があった中でも、三核構造と回遊性を維持し、市の南の玄関口として風格のあるまちづくりをするというコンセプトを維持するという考えを聞き、今後のまちづくり会議ではより具体的に協議していいのではないかと考えている。</p> <p>相模大野の資源や財産を有効活用していかなければならないという市長、副市長の話聞いて、市も意気込みを持って対応してくれると確信できたが、市民としては目に見えるスピード感が欲しい。今、コリドー街や商店街はコロナ禍の影響も受けているが、5年後にまちが寂れているようなことには絶対したくないので、行政にも支えてほしい。野村不動産の担当者からは、まちづくり会議のワーキング等で検討を重ねる中で、相模大野を魅力あるまちにするため、建物を建てるだけでなくまちづくりを頑張っていきたいという非常に熱意のある話を多く聞かせていただいた。先ほど中央公園や市営駐車場のリニューアルについて話が出たが、今後、中央公園等が野村不動産の建設する新しい建物の庭になるような風景ができていくと思うので、パークPFIなど、市もできるだけ民間の力を取り込み、新しい建物の完成とともに、中央公園や市営駐車場のリニューアルもできるぐらい、力を貸してほしい。また、相模大野をコンパクトシティとしてもアピールしていきたいと考えており、今後とも、季節の橋への階段の設置など回遊性の確保に向けた対応をお願いします。</p> <p>大野南地区まちづくり会議は今後も開催していくが、都市整備課、産業支援課及び南区役所には引き続き参加していただき、一緒に協議を進めていきたい。本日は長時間にわたって、大野南地区まちづくりを考える懇談会にご協力いただき感謝する。</p>
<p>市長の感想等</p>	<p>まちづくりは行政だけではできないという話もしたが、本日皆様から頂いた貴重なご意見を真摯に受け止め、市民の皆様と一緒により良いまちをつくっていききたいと考えている。先ほどグランベリーパークの話が出たが、相模大野には市営駐車場、中央公園、図書館など非常に付加価値の高い施設があり、野村不動産に対しても、その付加価値を忘れないよう、強くお願いしている。同社は民間事業者であるため丁寧に根気強く交渉していくが、行政が判断できることに関しては、本日指摘されたとおり、スピード感を持ってやらなければならないと反省している。今後とも忌憚のないご意見を頂きたい。</p> <p>市営駐車場に関しては令和2年10月に条例改正を行い、利用時間や料金に関しては利用しやすくなっていると思うが、利用率が3割強という厳しい状況であるため、賑わいを取り戻したい。中央公園のリニューアルの話もあったが、どんな公園にしたら人が集まるのか、地域の皆様の知恵を頂いて一緒に考えていきたい。今日は地区の皆様から貴重なご意見を頂いたので、市としても日々勉強しながら、後世につながるまちをつくっていききたい。</p>



	今後とも地域の皆様と相模大野を素晴らしいまちにするという熱意を持って、一緒にまちづくりに取り組むことを約束する。
--	--